

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

香川県 普通寺市

業務名	業種・事業名	管理者の情報	自己資本構成比率（％）
法非適用	電気事業	非設置	該当数値なし
水力発電所数	ごみ発電所数	風力発電所数	太陽光発電所数
-	-	-	2
その他発電所数	料金契約終了年月日	FIT・FIP適用終了年月日	電力小売事業実施の有無
-	令和16年6月30日/令和17年5月31日 ぜんつうじ太陽光発電所/ぜんつうじ大塚太陽光発電所	令和16年6月30日/令和17年5月31日 ぜんつうじ太陽光発電所/ぜんつうじ大塚太陽光発電所	無
売電先	地産地消の見える化率（％）※1		
四国電力株式会社	-		

※1 行政区域内の需要家に小売されたことが客観的に明らかであるものを計上。なお、この基本情報をもって全ての地産地消エネルギーへの取り組みを評価するものではない。

年間発電電力量（MWh）	R02	R03	R04	R05	R06
水力発電	-	-	-	-	-
ごみ発電	-	-	-	-	-
風力発電	-	-	-	-	-
太陽光発電	3,256	3,090	3,061	2,876	2,886
合計	3,256	3,090	3,061	2,876	2,886

	FIT・FIP以外	FIT・FIP	合計
年間電灯電力料収入（千円）	-	104,909	104,909

剰余金の使途について（具体的な使用実績事業を記入してください）	
基金への積立の有無…有	
目的：市民の安心・安全に資する事業等の推進及び発電所の維持管理等の経費に充てる	16,054 千円
一般会計への繰出しの有無…有	
目的：防犯灯等LED照明管理事業	21,400 千円
※太陽光発電事業基金の一部を取り崩し、一般会計に繰り出した後、防犯灯等LED照明管理事業に活用	
その他の有無…有	
目的：翌年度への繰越	4,562 千円

分析欄

1. 経営の状況について  
令和6年度は前年度と比較して、出力制御を実施した日数は増加したものの、猛暑日の日数が増加したことに伴い8月の発電量が増加した。また、10月については前年度より降水量が増加したことに伴い発電量が減少した。その他の月の発電量については大きな変化はなく、年間を通じた発電量は前年度比で微増したがほぼ横ばいであった。  
普通寺市の電気事業収入については、基金利子や前年度繰越金等もあるものの、FITによる売電収入が大半となっている。FIT終了後については、事業の廃止を視野に入れ、撤去・廃棄費用として24,300千円/箇所を見込み、太陽光発電施設リース契約の中で積立を行っている。

## 1. 経営の状況

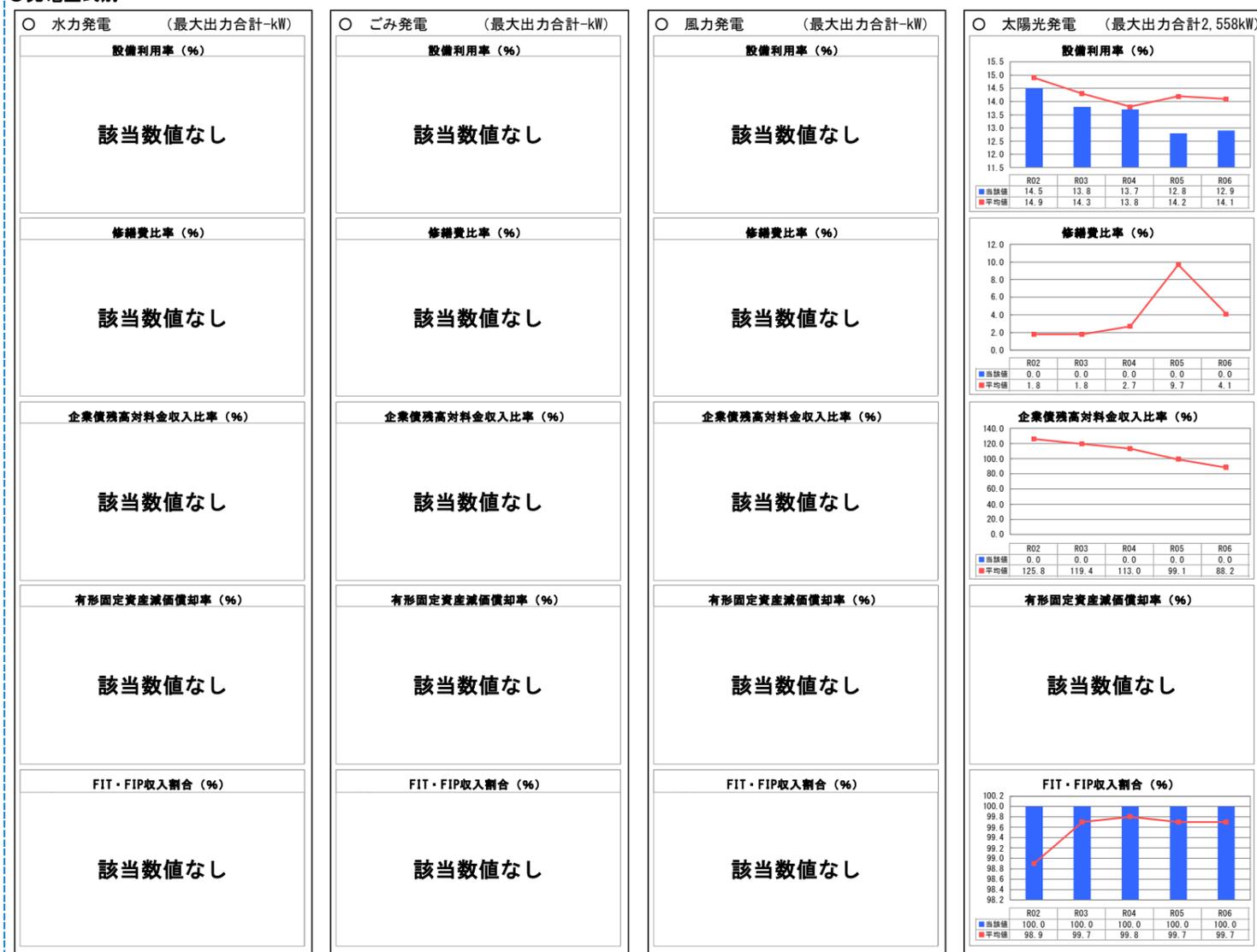


## 2. 経営のリスク

### ●施設全体



### ●発電型式別



### 2. 経営のリスクについて

令和6年度における売電収入は、前年度と比較して微増しているが、基本的には減少傾向にある。今後は天候状況や四国電力（株）による出力制御のほか、太陽光パネルの劣化（年0.5%の発電量減少を想定）により、さらに売電収入が減少していくことが考えられる。

### 全体総括

経営状況は概ね良好であるが、令和6年度においても、四国電力（株）による出力制御が春秋シーズンを中心に実施されている。今後も出力制御の回数が増加したり、異常気象により降水量が増加したりするなど、発電量が減少する可能性が考えられる。これらの要因により一時的に売電収入が減少すると考えられるが、地球温暖化の影響により7月や8月の夏の期間は今後ますます気温が上昇し、夏の期間の発電量が増加すると考えられるので結果的に収支が赤字になることはないと考えられる。

※ 令和2年度から令和6年度における各指標の全国平均値は、当時の団体数を基に算出していますが、設備利用率及び修繕費比率、企業債務高対料金収入比率、FIT・FIP収入割合については、令和6年度の団体数を基に平均値を算出しています。